

2025 年に向けた対応方針の更新について

1 概要

- ・地域医療構想の推進に当たって、地域の限られた医療資源を有効に活用し、効率的で質の高い医療提供体制を整備するため、医療機能の分化・連携を推進する観点から、「地域医療構想の進め方」（平成 30 年 2 月 7 日付け医政地発第 0207 第 1 号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）を踏まえ、本県では平成 29 年度に公的医療機関等に「公的医療機関等 2025 プラン」を御提出いただき、さらに平成 30 年度に民間病院からも「2025 年に向けた対応方針」を御提出いただいている。
- ・プラン等の内容に変更が生じる場合には、更新していただき、地域医療構想調整会議等における情報共有・協議に活用している。
- ・県央地区においては、県央地区保健医療福祉推進会議ワーキンググループで議題として検討し、その結果を県央地区保健医療福祉推進会議に報告することで情報共有・協議を行っている。

2 対応方針を更新する医療機関について

- ・綾瀬厚生病院から「2025 年に向けた対応方針」の更新の提出があり、令和 3 年度第 1 回県央地区保健医療福祉推進会議ワーキンググループで議題として検討した。

【説明者：綾瀬厚生病院 石代院長、資料：別紙 1】

<主な意見>

- ・地元医師会理事会で病院から説明を受けた。近隣としては、これに対して特段の反対等はないように聞いている。
- ・地区病院協会は連絡を受けていなかった。あらかじめ情報をいただきたかった。
- ・県央地区で考えた場合、慢性期（療養病床）も足りない。過剰な急性期を減らして足りない回復期に持って行くのではなく、足りない慢性期から回復期に変えることは、病院の方針としてはわかるが、推進会議で諮るべきではないか。

3 今後の対応に関する事務局（案）

- ・今回の綾瀬厚生病院の病床機能区分の転換は、過剰な病床機能区分への転換には当たらないものの、本件は地域の中で更なる議論を求める声があること、また、慢性期から回復期への病床機能の転換は県央地区では初めてのケースであることから、再度議論を行う必要がある。
- ・そこで、来年 2 月に開催予定の病院協会が主催する地域ワーキンググループにおいて、再度ご議論いただいた上で、次回の県央地区保健医療福祉推進会議で協議を行うこととしたい。

2025年に向けた対応方針

別紙1

作成日	2018年9月18日 (R3.10月20日変更)						
医療機関名称	綾瀬厚生病院		開設者	医療法人社団 柏綾会			
所在地	神奈川県綾瀬市深谷中1-4-16						
医療機関の現状							
病床種別		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計
	許可病床数	108床	60床				168床
	稼働病床数	108床	60床				168床
病床機能 (2018年)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計
	許可病床数		84床	24床	60床		168床
	稼働病床数		84床	24床	60床		168床
診療科目	内科・外科・循環器内科・整形外科・脳神経外科・消化器外科・眼科・皮膚科・呼吸器内科・産婦人科・小児科・形成外科・泌尿器科・リハビリテーション科・麻酔科						
職員数	医師25.2人、薬剤師4.3人、看護職員98.5人、看護補助27.3人、診療放射線技師4.0人、理学療法士18.0名、作業療法士5.0名、臨床検査技師5.4人、臨床工学技士3.0名、言語聴覚士2.0名、管理栄養士2.0人、MSW3.0人、医事15.9人、総務10.3人 合計223.9人						
指定・届出等の状況 (指定を受けているもの、届出をしているものに○)	救急病院	緩和ケア病棟	地域包括ケア病棟(病床)	回復期リハビリテーション病棟	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	
	○ 告示・輪番			○ (24床)			
自院の特徴、得意分野、特筆すべき事項等	<ul style="list-style-type: none"> ■綾瀬市唯一の急性期病院(二次救急対応)として、同市の基幹病院機能を担う意識 ■整形疾患(手術対応)、消化器外科(手術対応)、産婦人科(分娩・手術)、人工透析(外来・入院) 						
課題等	<p>平成29年10月に回復期リハビリテーション病棟を開設以来、ほぼ満床稼働がつづいており、令和3年度上期の病床利用率(午前0時時点)は99.4%にて、院内からの待機者及び、他医療機関からの待機者も常時発生している状況です。</p> <p>超高齢化社会に向けて地域包括ケアの重要性が益々高まる中で、在宅復帰を目的とする回復期リハビリテーション病棟はその要であり、当院の当該病棟の稼働率の高さと待機者の状況からも、その必要度の高さは、地域包括ケアの中の1医療機関として認識しているところであります。</p> <p>しかしながら、周辺の回復期リハビリテーション病棟の配置状況は、相模川の東岸の綾瀬市、海老名市の両市に回復期リハビリテーションの病床は62床(令和3年6月時点)しかありません。今後、要支援・要介護者の認定者数がますます増加する事が見込まれる中、回復期リハビリテーション62床では少な過ぎると思われる事から、病床数不足を少しでも改善させたく、既存の病床種別を変更させ回復期リハビリテーション病床を増やす事を計画した次第です。</p>						
2025年に向けた方針							
病床機能 (2025年予定)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	介護施設等	計
		84床	38床	46床			168床
今後地域で担う役割等	急性期機能、回復期機能、慢性期機能、在宅支援機能等を備えた同市の基幹病院として整備する。						

病床機能の変更 (増床・減床を含む)を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	・許可病床数の変更を希望 現 状;一般急性期84床、 <u>一般回復期24床、療養病床60床</u> 、計168床 変更後;一般急性期84床、 <u>一般回復期38床、療養病床46床</u> 、計168床 ・理由 今般の病床変換は、4階病棟にある既存の療養病床60床の内14床を一般病床に転換させ、直下階の3階にある既存のリハビリテーション病棟へ配置し、リハビリテーション病床を24床から38床とする計画となります。 直上階の4階病棟には、新に病棟専用のリハビリテーション室を設けるスペースがありますので、従来からの1階部分のリハビリテーション室と合わせて160㎡以上となって、脳血管リハビリテーションの最高位の基準Ⅰを取得することができ、より質の高いリハビリテーションを提供することができるようになります。(現在は脳血管リハの基準Ⅱを算定中) 回復期病棟増床後は、グループ内の養成校(湘南医療大学、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)からの療法士の入職も予定されますので、当該リハビリテーション病棟では、患者様1人あたり平均7単位以上のリハビリテーションの提供が可能となります。これらによって、質とともに量的にも十分なリハビリテーションを実施して参ります。 在宅復帰する患者様のADLを向上させ、住み慣れた地域の中で、末永く自分らしい生活が送れることを、当院が今まで以上に支援することが、当院の病床転換によって、可能になると思われます。 ・変更時期 令和4年1月を希望
---	---

診療科や、その他の機能の変更、見直し等を予定している場合 ・具体的内容 ・理由 ・予定時期等	
---	--

その他・自由記載欄	
-----------	--

数値目標等

項目	現状(2018年)	2020年度(R2.4~R3.1)	※病棟ごとに大きく異なる場合は、病棟ごとに記載	
病床稼働率	90%	89.5%	一般病棟	81.3%
手術室稼働率	50%		回復期病棟	99.4%
紹介率	-	-	療養病棟	97.2%
逆紹介率	-	-	※病床種別毎の病床利用率(0時時点)	

他医療機関・介護施設等との連携について

主な受入元 (医療機関・施設名)	海老名総合病院・大和市立病院・北里大学病院・東海大学病院・聖マリアンナ西部病院 座間総合病院・厚木市立病院・さがみ野中央病院・南大和病院・相模台病院・ 藤沢市民病院・湘南東部総合病院・大和徳洲会病院・神奈川県立がんセンター・ 湘陽かしわ台病院・原クリニック・ふれあい横浜ホスピタル・横浜市立大学病院・ 茅ヶ崎新北陵病院・あやせ訪問クリニック・寒川病院・湘南中央病院・中沢内科医院・ 近藤病院・町田市民病院・小田原市立病院・湘南鎌倉総合病院・東名厚木病院・ 湘南厚木病院・横浜第一病院・湘南藤沢徳洲会病院・帝京大学病院・腎健クリニック・ 東芝林間病院・中央林間病院
主な退院先 (医療機関名・施設名)	藤沢湘南台病院・湘南東部総合病院・大和成和病院・海老名総合病院・東海大学病院・ 老健メイプル・老健ふれあいの桜ロイヤルレジデンス綾瀬・サ高住マザーホーム戸室・ 道志会・グループホーム楓・ココファンさがみ野・ヨウコーキャッスル綾瀬・特養泉正園・ 特養社の郷・グループホームかわせみ・サニーライフ綾瀬・SOMPOケアラヴィール綾瀬・ サンライズヴィラ綾瀬・リリケア綾瀬・神奈川県立がんセンター・赤枝病院・ 横浜甞生病院・ヴィラ城山、自宅
特に力を入れている疾患等	整形外科・消化器外科・回復期リハ対象患者・入院透析
入院不可・対応不可の疾患等	高度急性期治療を要する患者
連携に関する要望や課題認識等	地域急性期病院との連携